

三重県文化振興計画
令和6年度評価シート

1. 環境をつくる

(1) 成果指標

指標	R4 — 実績	R5 目標 実績	計画期間		
			R6 目標 実績	R7 目標	R8 目標
参加した文化活動、生涯学習に対する満足度（※1） ※みえ元気プランのKPIと同一	— 75.5%	73.6% 77.0%	74.6% 76.9%	75.5%	76.6%
県立文化施設の利用者数（※2） ※みえ元気プランのKPIと同一	— 98.2 万人	100 万人 104 万人	130 万人 147 万人	135 万人	140 万人

※ 1 : 県立文化・生涯学習施設が実施した展覧会、講座、公演事業および歴史・文化資源を活用した事業におけるアンケート調査で、「満足」「やや満足」「やや不満」「不満」のうち、その内容について「満足」と回答した人の割合

※ 2 : 県立の図書館、博物館、美術館、斎宮歴史博物館および三重県総合文化センターの利用者数

(2) 参考指標

指標	R4 実績	R5 実績	R6 実績	
文化振興課及び県立文化施設のウェブサイトへの月平均アクセス数（※3）	619,236 件/月	631,690 件/月	672,767 件/月	
県立文化施設がさまざまな主体と連携して行う出張講座や移動展示等のアウトリーチ活動への参加者数（※4）	10,341 人	12,927 人	13,121 人	
県立文化施設間の連携事業の実施数（※5）	31 件	73 件	71 件	
施設利用者の満足度（※6）	①展示内容 ※三重県総合文化センターを除く ②説明・キャプション(展示解説パネル等)のわかりやすさ ※三重県総合文化センターを除く ③職員の応対(言葉づかい・マナー、対応内容等)	71.7% 70.4% 68%	76.1% 61.7% 67.5%	77.7% 62.6% 78.4%

※ 3 : 県が管理運営するインターネットのホームページ「三重の文化」への月平均アクセス数及び県立文化施設（三重県総合文化センター、県立美術館、県立図書館、三重県総合博物館、斎宮歴史博物館）が管理運営するウェブサイトへの月平均アクセス数

※ 4 : 県立文化施設がさまざまな主体と連携して行う出張講座や移動展示等への参加者数

※ 5 : 県立文化施設間の連携事業の実施数

県立文化施設（三重県総合文化センター、県立美術館、県立図書館、三重県総合博物館、斎宮歴史博物館）が連携して実施した事業の数

※ 6 : 県立文化施設の来館者アンケートにおける次の項目について、4段階評価で「満足」と回答した人の割合

(3) 取組概要

【基本施策 1：県民の文化に対する関心及び理解の醸成【重点】】

【総合文化センター】

- ・文化会館事業・普及型公演事業(ワンコインコンサートシリーズなど)
 - ①ワンコイン・コンサートシリーズ:全 7 公演終了。平均入場者数:960 人
 - ②オンステージ・コンサートシリーズ:全 2 公演終了。平均入場者数:166 人
 - ③総文レコーディングアーティストシリーズ:全 1 公演終了。入場者数:275 人
 - ④M ゲキセレクション:1 公演終了。入場者数:175 人
- ①の集客はコロナ禍前の水準に回復しつつある。②は毎回ほぼ完売となる人気。③、④は目標入場者数を下回っているが、満足度は高かった。
- ・広報誌の発行
30 周年記念事業を中心に掲載、県立文化施設(図書館・MieMu・美術館)との連携情報も掲載。
- ・総合文化センターPR事業
30 周年に合わせて、PR 動画「未来のそうぶんムービー」を作成。
- ・生涯学習センター事業(まなびいすとセミナー、楽々シリーズなど)
三重のまなび講演会 2024「リュウジ式至高の講演会ー料理が教えてくれたことー」やみえアカデミックセミナー、まなびいすとセミナー、楽楽シリーズなど 61 講座を開催。
参加人数 15,399 人、参加者満足度 82.8%
- ・開館 30 周年記念事業
 - ①4/28(日)三重のまなび講演会
「リュウジ式至高の講演会 ～料理が教えてくれたこと～」 1,342 人
 - ②5/11(土)ファンファーレ事業
緒方恵美講演会「声優ーオンナとかオトコとかって、境界線に立って考えてみた」766 人
 - ③7/7(日)みえアカデミックセミナー2024 オープニング小平奈緒講演会「知るを愉しむ」 975 人
 - ④7/21(日)みえミュージアムセミナー特別編
「ニキとヨーコ ～下町の女将からニキ美術館を建てるまで～」 137 人
 - ⑤8/31(土)～9/23(月・祝)ニキ・ド・サンファル展 2,482 人
 - ⑥9/23(月・祝)佐渡裕指揮 新日本フィルハーモニー交響楽団 1,818 人
 - ⑦10/13(日)木ノ下歌舞伎「三人吉三廓初買」 580 人
 - ⑧通年 三重音楽発信 vol.11 オペラ「カルメン」 1,204 人
 - ⑨1/5(日)三重の子どもニューイヤーコンサート 2025 1,434 人

【総合博物館】

- ・開館 10 周年を記念し、4 つの記念企画展を実施。
- ・4/21 の「MieMu の日」には、県民・来館者とともに開館 10 周年をお祝いするため、みえ応援ポケモン「ミジュマル」も駆けつけ、盛大な記念セレモニーを開催。
- ・11/4 には、県立文化施設アニバーサリー連携事業の一環として、三重県生涯学習センターと共にで、三重県ゆかりのアニメ映画監督・高畑勲氏が手掛けた映画「パンダ・コパンダ」の上映会を三重県総合文化センター中ホールで実施。
- ・各企画展でも当館で初めてのニコニコ美術館でのライブ配信や、スマホゲームの刀剣乱舞とのコラ

ボレーションなどに広報、集客活動に取り組んだ。

- ・開館 10 周年記念として、4 つの企画展を開催し、記念セレモニー、上映会など例年では行っていないイベントや広報、集客活動を複数開催したことから、準備や調整等にかなりの時間や負担が生じた。
- ・次の 20 周年などでは、効率的なスケジュール等の計画を立てて、事前の準備行為や職員の役割分担に努めたい。

【美術館】

- ・「美術館がつなぐ共生社会推進事業」については、滋賀県美術館、福岡市美術館でのプログラム調査、ひきこもりの家族の会や支援センターでの聞き取り、筆談鑑賞会、出張授業、三重県立かがやき特別支援学校・三重県立飯野高等学校における移動展示、および、さわる鑑賞のための教材開発にむけた検討などを行い「誰もが利用しやすい環境」の構築に向けた事業を実施。

【斎宮歴史博物館】

- ・情報発信では、ホームページ、X(旧 Twitter)、広報誌(年 2 回発行)によって、展覧会やイベント等の基本的な情報のほか、令和 5 年度末の敬宮愛子内親王殿下のご来館、4 月上旬の入館者 200 万人達成、NHK 大河ドラマで関心の高まった源氏物語をテーマとする春季企画展や賑わい創出のためのさまざまなイベント、キャンペーンなど、話題性のある情報を発信して発信内容の充実に努めた。 ホームページアクセス数:53,550 件(昨年度比約 125% の増)
- ・企画展、特別展の記念講演会(年 3 回)、斎宮について多角的に学ぶ講座「斎宮学講座」(年 5 回)、史跡公園「さいくう平安の杜」西脇殿で実施する「さいくう西脇殿歴史フォーラム」(年 4 回)、職員が日頃の研究成果を分かりやすく解説する「イブニング講座」(年 6 回)など、多様な講座を開催。 参加者総数:1,872 人、満足度:68.5%
- ・いつきのみや歴史体験館における歴史体験事業(体験サポート事業)
サポート件数 5,981 件、サポート人数 13,862 人(昨年度:3,768 件、9,105 人)
- ・開館 35 周年記念事業として、春季企画展、夏季企画展、特別展、特別企画展示などの展覧会を実施するにあたり、にぎわい創出に向けた取組の一環として、館内に横断的なプロジェクトチームを組織して、展覧会の開催時期と連動させたイベントやキャンペーンを実施。
- ・開館 35 周年記念メモリアルイベント「特別上演！斎王まつり&今よみがえる幻の宮」(6/14~7/4)
参加者:403 人
- ・三重県文化会館中ホールで開館 35 周年イベントとして公演・トークライブ(1/13)を開催。
参加者:812 人
- ・「斎宮ガイドブック」の売り上げも 791 冊と好調で、増刷を行うこととなった。
- ・各種事業や情報発信の実施時期や手法、内容などを工夫し、さらに効率的・効果的な取組を行う必要がある。

【図書館】

- ・オンライン予約取り寄せサービスの利用案内動画(再生回数 38 回)、職員のおすすめ絵本紹介動画(通常の動画 1 本・ショート動画 2 本、再生回数 140 回、ショート動画 82 回・30 回)を公開。再生回数が伸びなかつたことから、再生回数を伸ばす工夫やテーマの検討が必要である。

- ・図書館ホームページにおいてイベント等の情報発信を行っている。 アクセス数:1,194,531 件
- ・県立文化施設の企画展等への理解が深まるよう連携事業として、関連する図書を紹介するブックリストを 40 種類作成、配布。
- ・図書館移転・開館 30 周年記念事業を三重県書店商業組合、三重県まちの古本屋さん協会、皇學館大学と連携、協力による読書イベントを実施した。今後も、連携・協働した読書文化の振興に取り組む。

※各イベント来場者数

- ・講演会「万城目学が語る『小説家という仕事』 197 名、万城目学氏サイン会 70 名
 - ・書籍販売会、キャラクター撮影会 270 名 ・古本市 540 名
 - ・子ども向けワークショップ「MyBox を作ろう！」 18 名
 - ・お茶会～一服いかがでしょうか～ 187 名 ・マルシェ「bookmark」 1,706 名
- 計 延べ 2,988 名

【文化振興課】

- ・令和6年度に県立文化施設各館(博物館 10 周年、総合文化センター30 周年、斎宮 35 周年)が開館周年を迎えたことから、「県立文化施設アニバーサリー連携事業」として美術館も含め全ての館の関連事業をホームページで情報発信を行った。
- ・1/5 に開催された「三重のこどもニューイヤーコンサート 2025」では、子どもたちに音楽に触れ楽しむ機会を提供。

基本施策2：県民の鑑賞等の機会の充実

【総合文化センター】

・文化会館事業鑑賞型事業

年間目標:①入場率80%以上、②満足度95%以上、③収支率92%以上

実績①83.0%②96.8%③85.2%

・「みえ文化芸術祭」の開催

①みえ県民文化祭 5/26(日)総合フェスティバル 入場者数2,190人、参加者数380人

②みえ県展 5/18(土)～6/2(日) みえ県展 入場者数5,959人

③みえ音楽コンクール 入賞者記念演奏会 入場者数333人 コンクール参加者数200人

・文化会館事業県民参加型事業

①11/17(日) オペラ「カルメン」 入場者数1,204人

②1/5(日) 子どもニューイヤーコンサート 入場者数1,434人

いずれも内容、集客ともに大成功となった。

・新日本フィル 29市町巡回事業(熊野市)

6/20(木)～22(土)第1クール

学校出前授業(小学校4校、中学校2校) 参加者数565人

鬼ヶ城センターコンサート 入場者数116人

9/16(月祝)第2クール

スペシャルコンサート 入場者数453人

令和7年度は南伊勢町、度会町開催が決定

・地域開催の「ワンコインコンサート」

7/26(金)松阪 入場者数326人 8/29(木)松阪 入場者数136人

9/27(金)松阪 入場者数374人 12/7(土)嬉野 入場者数249人

1/25(土)南伊勢 入場者数173人

来年度は松阪市3回及び新規市町2か所(いなべ市、紀北町)での開催を予定

・地域開催の「みえ県展」

6/15(土)～22(土)熊野移動展 入場者数674人

来年度は東員町での開催を予定

・M-PAD

11/13(水)～22(金) 参加者数400人

【総合博物館】

・開館10周年記念事業として、下記の企画展を開催。

春季「パール」(観覧者数:9,264人)、夏季「標本」(観覧者数:25,078人)、

秋季「刀剣」(観覧者数:16,037人)、冬季「金曜ロードショーとジブリ展」(観覧者数:193,059人、※4/11までの全期間では、233,764人)。

・三重県総合文化センターとの初めての共催展となる特別展「金曜ロードショーとジブリ展」は両施設を会場として開催。

・4つの企画展・特別展は、異なる多彩なテーマ・分野での開催であり、県内外から幅広い年齢層の観覧者を集め、MieMuへの来館機会を拡大することに成功。

- ・来年度開催予定の移動展(大台町開催)については、大台町の自然や歴史を紹介できるよう、幾度となく現地調査を行い、魅力を発信できるように取り組んでいる。
- ・10周年記念事業で取り組んだ成果や経験、工夫は、これから企画展やイベントに活かせることが多いため、記録や館内共有を行って、今後の事業等に活用していく必要がある。

【美術館】

- ・12月から3月末までの間、工事休館を行ったため例年より1期分の企画展が少なかったが、目標入館者数の約8割を集客し、アンケート結果による展示満足度(満足+やや満足)も95.7%であったことから、概ね好評であった。
 - 洋画の青春(観覧者数6,288人)、シュルレアリスムと日本(観覧者数7,492人)、
 - 果てなきスペイン美術(観覧者数12,940人)、
 - 知っておきたい三重県の江戸絵画(観覧者数5,390人)、柳原義達展(観覧者数3,587人)

【斎宮歴史博物館】

- ・令和6年度は開館35周年目にあたることから、春季・夏季企画展、特別展を開館35周年記念展として開催。
 - 春季企画展(観覧者数6,753人)令和5年度の約4倍
 - 夏季企画展(観覧者数2,038人)令和5年度の約1.2倍
 - 特別展(観覧者数2,533人)令和5年度の約2倍
- ・3つの展覧会の満足度:満足が79.5%と好評。
- ・春季企画展は、令和5年度末の敬宮愛子内親王殿下のご来館や4月上旬の入館者200万人達成などにより博物館に対する注目度が高まったことに加えて、NHK大河ドラマが源氏物語の作者紫式部を主人公として放映され、平安時代に対する関心が高まったことを好機ととらえ、源氏物語をテーマに開催し、会期中にエントランスホールにてNHK主催の大河ドラマ巡回展も実施されたことなどから、前年度の約4倍、過去10年でも最大の展示観覧者数を記録。
- ・夏季企画展、特別展の開催期間中には、併せてサマーキャンペーンやオータムキャンペーンなどを展開して相乗効果をあげることを目指したほか、特別展では、35周年記念展として、国宝1件、重要文化財6件などを展示し、斎宮の歴史や関連文化に関する貴重な文化財を鑑賞する機会を提供するなどした結果、いずれも前年度を上回る観覧者数を得た。
- ・鈴鹿市・津市・松阪市・明和町・伊勢市など県内各地において出前講座(20回)を実施。参加者合計2,085人。
- ・次年度は新たに冬季の特別企画展示を開催し、観覧の機会を充実させるとともに、調査研究の成果を基礎にして、展覧会の質を高めることによって、さらに多くの観覧者が得られるよう努める必要がある。

【図書館】

- ・7/6(土)度会町にて「南伊勢高校度会校舎図書館開放デー」(度会校舎・度会町連携事業)に協力し、県立図書館の便利なサービス(e-bookingや遠隔地返却)の案内を行うとともに、参加者、生徒と缶バッヂ作りを行った。
- ・図書館未設置自治体等へ620冊(大紀町教育委員会320冊、三重大学病院300冊)の特別貸

出を実施。今後は、特別貸出による未設置自治体等への貸出に重点を置いた取組を検討。

- ・県立図書館から市町立図書館等への貸出 12,679 冊、市町立図書館等から県立図書館への借受 3,699 冊
- ・非来館サービスとして、オンラインを活用した利用登録申請を実施。さらに令和 7 年度は電子図書の導入を行う予定であり、引き続き、オンラインを活用したサービスの提供など、利用者の利便性向上に取り組む。

【基本施策3：高齢者、障がい者等の文化活動の充実】

【総合文化センター】

- ・みえアールブリュット展、三重県障がい者芸術文化祭等への参画

- ・聴覚障がい者に対応した要約筆記等

①4/28(日)三重のまなび講演会 ②5/11(土)ファンファーレ事業

③7/7(日)みえアカデミックセミナー2024 オープニング

④9/14(土)フォーカスみえ ⑤3/8(土)男女共同参画フォーラム

- ・託児サービスの充実

実施回数 65回、利用者数 145人

- ・英字や点字パンフレットの作成

5/11(土)金子三勇士ピアノリサイタル(英字・点字)

7/20(土)MIE Chamber Players(英字・点字)

8/31(土)・9/1(日)第七劇場「ヘッダ・ガーブレル」(英字)

9/23(月・祝)佐渡裕指揮 新日本フィルハーモニー交響楽団(英字・点字)

10/6(日)福間洸太朗ピアノリサイタル(英字・点字)

10/13(日)木ノ下歌舞伎「三人吉三」(英字)

11/17(日)三重音楽発信 vol.11 オペラ「カルメン」(英字・点字)

11/23(土)5台ピアノ ピアノ・ツイルクス(英字・点字)

【総合博物館】

- ・懐かしい生活道具を展示する暮らしの道具展は、特別展「金曜ロードショーとジブリ展」の開催時期とも重なり、博物館収蔵資料を県内外の多くの方に観覧いただくことができた。

- ・夏季の企画展「標本」では、学芸員が教育的利用のために制作した触れる標本コーナー(触れる展示)を設け、視覚障がい者だけでなく、子どもから高齢者まで、誰でも楽しめる展示を実現。

- ・高校と連携し、3Dプリンターで制作した自然史系教材を県立盲学校で試験的に利用してもらうなど、これまで蓄積してきた触れる展示の経験を活用する試みも実施。

- ・外国の来館者の受付に対応できるよう翻訳機を導入。

- ・誰もが楽しめる博物館であるよう、引き続き展示をはじめとする諸活動において、高齢者や障がい者が利用しやすい環境の提供、工夫を行っていく必要がある。

【美術館】

- ・スペイン美術展の関連事業として手話通訳・要約筆記による記念講演会を実施。

- ・美術館を利用しづらい方へのソフト面でのアプローチとしては「美術館がつなぐ共生社会推進事業」の実施、ハード面でのアプローチとしては館内の来客用トイレにオストメイト対応のバリアフリートイレを増設。

【斎宮歴史博物館】

- ・音声を聞き取りづらい高齢者団体に対して映像展示「斎王群行」の字幕版を上映。

- ・全国要約筆記問題研究会三重支部が主催する常設展示のオンライン見学ツアーに協力するなどの取組を実施。

【図書館】

- ・大活字本・DAISY 図書・新規受入 266 冊
- ・蔵書数 4,098 冊、貸出冊数 5,432 冊
- ・4 月に展示コーナーで大活字本と DAISY 図書の PR 展示を実施するとともに、児童書新刊閲覧会で DAISY 図書の PR 展示を実施。
- ・8/8(木)三重県視覚障害者協会と連携し、「手話のおはなし会」を実施(参加者数子ども 22 名、大人 13 名)。アンケート結果は「よかったです」が 88.9%と好評。
- ・図書館Webサイトの「やさしい日本語」による利用者案内のアクセス数は増加しているが、積極的な取組ができなかったことから、ダイバーシティ社会推進課の取組などの聴き取り結果を今後の図書館の取組に生かしていく。

【障がい福祉課】

- ・三重県障がい者芸術文化祭の開催

作品展の出展点数 724 点(過去最多)。来場者 2,400 人(昨年度 1,064 人の約 2.2 倍)。

障がい者による芸術文化活動が盛んになり、発表の場、芸術文化で交流できる場が求められていることがわかる。

アンケート結果も、作品展について「素晴らしい」「もっと見てみたい」と高く評価する声が多かった。一方で、「今まで知らなかった」「もっといろんな人に見てほしい」とさらなる周知を求める声も多くあり、芸術文化祭・巡回展共通の課題。

ステージ発表については、コロナ禍に活動が落ち込んで以来、発表者、観覧者ともに少なく、参加者を増やすことが課題。

- ・みえアールプリユット展の開催

令和 6 年度は、2 会場合わせて 1,232 名の方に来場いただき、令和 5 年度より 598 人増となった。亀山会場は、亀山市や地元の絵画教室の協力もあり、来場者 430 人と多くの方に来場いただいた。アンケートの回答率も高く、芸術活動への支援申込や支援センターへのメッセージもあり、つながりが生まれる展覧会となった。津会場は、会場内の別のイベントからの立ち寄りや、例年のリピーター来場などがあり、802 人と過去最高の来場者数となった。

アーティスト作品についてはレベルの高さに驚く来場者が多かった。今後については、芸術上価値が高い作品の評価をアート雇用や作品等の販売などにどうつなげていくかが課題。

- ・企業民間団体等と連携した作品展

カフェ(DOODLE、だいだい食堂)や寺院(増上寺)、事業所等が主催した展覧会については、通常の展覧会とは違った雰囲気、客層となり、作品展示の可能性を広げるものとなった。伊勢市展と同時開催した展覧会は、今年度は来場者が少なく、周知に課題。

- ・関係者とのネットワークづくり

三重県文化振興事業団とは、芸術文化祭実行委員会、演劇ワークショップやフレンテみえでの作品展示、さらには鑑賞サポート付き演劇「メゾン」についての取材を通して、連携が強化された。

津市久居アルスプラザのバリアフリーコンサートにモニターとして参加し意見を伝えたことにより、(株)ケイミックスパブリックビジネスとの交流も生まれた。今後も、さらなる交流が生まれることを期待。

三重テレビに三重県障がい者芸術文化祭の特集を制作してもらい、同イベントに关心を持つもらうことができた。

- ・アートサポーターの派遣事業

相談支援を行った事業所が芸術文化祭に出展、相談者も芸術文化祭に出展し、受賞につながるケースがあった。

全国から情報提供された障がい者芸術に関するコンテストを周知したところ、相談者が複数人応募し、入選する方もあった。相談者の可能性を広げ、より芸術文化に親しんで積極的に行動してもらえるようになった。

ホームページ等からの相談者数も増加傾向にある。相談支援事業のさらなる周知と、支援人材不足が課題。

【基本施策4：子どもたちの文化活動の充実【重点】】

【総合文化センター】

・文化体験パートナーシップ活動推進事業

6月～2月：65校訪問、参加児童数2,001人、学校の満足度92.0%

・サマープログラム for KID's アソボ・マナボ・タノシソウブン

7/20(土)～8/31(土) アソボ・マナボ・タノシソウブン のべ4,908人

・三重ジュニア管弦楽団育成事業

毎月3回の練習を実施。練習、演奏活動ともに精力的に取り組んでいる。

8/4(日)「子どもオーケストラ教室」入場者数300人

1/5(日)「子どもニューイヤーコンサート」入場者数1,434人

・三重大学との連携協定事業

①講師相互派遣

6/14(金)三重大学演劇入門 参加者数18人

7/6(土)おしゃべり古典サロン 参加者数のべ256人

②劇場インターンシップ受入

8～9月公募インターンシップ 三重大学参加者数4人

春季インターンシップ 三重大学参加者数4人

【総合博物館】

- ・子ども体験展示室については、時間入替制が定着し、安全で快適な利用環境が提供できている。
- ・11月から月1回のペースで、子ども体験展示室で学芸員が専門分野を生かした絵本のおはなし会を実施。
- ・子ども体験展示室は、未就学児童の利用が多いため、安全で使いやすく、資料展示が見やすいよう一部の展示什器等について修繕を実施。
- ・学芸員講座において、県内の学校51校2,356人に出張授業（館内での講座含む）を行い、三重の自然、歴史文化への興味関心の醸成を図ったほか、高校3校、中学1校を対象に課題探究型学習支援を行った。
- ・夏季企画展では、自然史標本に対する興味関心の醸成を目的に、各分野の標本づくり教室4回、標本の名前を調べる同定会1回などを開催し、夏休みの自由研究にも活用してもらった。
- ・子ども体験展示室は、利用頻度の高い施設であるが、開館10年を迎える、展示物の傷みが目立っている。
- ・子どもたちの文化活動の充実のほか、社会的課題となっている子育て支援にも寄与している施設であることから、継続的に修繕を行っていく必要がある。

【美術館】

- ・柳原義達展関連のワークショップを3回、アニメーションイベント関連のワークショップを1回、その他三重大学が企画・運営したワークショップを1回、JAMM キッズクラブが企画したワークショップを6回開催し、子どもたちの美術に対する興味関心の醸成を行った。
- ・県内学校（小学校～高等専門学校）からの要請に応じ、7校延べ8回の出張授業（展示室から院

内学級へのリモート含む)を行い、美術館や美術作品に対する興味関心の醸成を行った。

【斎宮歴史博物館】

- ・夏季企画展は、夏休みの自由研究に活用してもらえるよう、「食」をテーマに開催。鑑賞のポイントを記した子ども向けのキャプションも設置するとともに、展示を見ながら取り組むことができる子ども向けのワークシートを用意した。
- ・発掘体験プログラムを実施し、県内の中学校2校(計41人)に対しそれぞれ発掘体験の機会を提供。このプログラムでは、史跡斎宮跡第207次発掘調査現場での発掘体験、土器の接合体験、博物館や出土遺物の整理作業等の見学を行った。
一般公募の発掘体験と土馬づくりのイベント(21人)などを実施。実施後のアンケートでも「満足」の回答を多く得られるなど、好評であった。
- ・「かわせみ座」による地域小学校等への公演は3件。
- ・いつきのみや歴史体験館との役割分担に配慮しつつ、博物館においても子どもを対象とする展示や体験などのプログラムの充実を図る必要がある。
- ・社会見学での利用にあたっては、博物館や体験館だけではキャパシティーに限りがあるため、史跡斎宮跡の全域を活用してもらえるよう周遊プログラムの整備を進める必要がある。

【図書館】

- ・子ども向け地域資料の収集資料数14点
- ・三重県の人物や伝統産業などについて調べる場合に便利な子ども向け調べ方案内の第7弾「調べてみよう 三重県の祭り・行事」、第8弾「調べてみよう 三重県の戦争」、第9弾「調べてみよう 三重県の鉄道」、第10弾「三重県の生物」を作成し、配布。
- ・子どもの読書週間(4/23~5/12)、読書週間(10/27~11/9)にちなんだイベントとして、ぬりえやクイズラリー、ブックトーク等を開催。
- ・おはなし会ボランティアグループ(4団体)や職員によるおはなし会を83回開催。
- ・「手話のおはなし会」(8/8(木)) 参加者:子ども22名、大人13名。
- ・「英語のおはなし会」(10/12(土)) 参加者:子ども20名、大人20名。アンケートでは18名中18名が「よかったです」と回答。
- ・「冬休みお楽しみ袋」(12/24(火)~1/10(金)):80セット貸出
- ・「ヘビの絵本おはなし会」(1/12(日)) 参加者:子ども11名、大人6名
- ・大紀町教育委員会へ図書の特別貸出(320冊)を行った。
- ・各学校図書館における選書の参考とされることを目的に新刊閲覧会を開催。
7/4(木)、7/5(金)参加者23名、2/6(木)、2/7(金)参加者38名。アンケートは4段階評価で「よかったです」が89.8%と好評。引き続き、図書館未設置自治体の状況にあわせたサポートを行うとともに、研修会への職員派遣等を行う。

【小中学校教育課】

- ・第2回「令和6年度部活動のあり方意見交換会」(9/20):市町教育委員会指導主事など45名参加。県内の先進事例の共有を行うとともに、近隣市町同士で意見交換する場を設けることで、市町間の連携を深めることに寄与。

- ・他課と連携し、人材バンク設置に向けシステムの構築を行った。
- ・部活動指導員の配置では、13 市町に国費を活用して補助金を交付し、46 名分(実績報告)の部活動指導員の配置を確保。
- ・令和7年度から本格的に運用する人材バンクを県内全域で活用するため、他課と連携し、周知に努めることが必要。
- ・部活動の地域移行の進展、部活動指導員の活用促進について、各市町が独自予算を確保しながら取組を進めることができるよう、国の動向を注視しつつ、引き続き、先進事例の周知等を行う。

基本施策5：文化活動への支援

【美術館】

- ・伊賀市美術博物館基本計画策定業務委託プロポーザル審査委員会、鈴鹿市文化財保存活用地域計画協議会、四日市市文化財保護審議会委員会などに出席し、各市の文化事業に協力。
- ・桑名市民展、四日市市美術展覧会、伊勢市美術展覧会の運営、審査、展示、講評等に協力し、各市文化活動への支援を行った。

【文化振興課】

- ・これまで把握しきれていなかった文化団体をメーリングリスト化することで、県内文化団体の調査委託への調査対象として整理した。継続的なリスト管理が必要。
 - ・支援につなげる取組の一環として新たに始めた文化団体の情報発信やPR依頼は計4団体からの希望があり、SNSを通じた県からの情報発信を図った。来年度以降も、引き続き取り組む。
 - ・アーツカウンシルの必要性や文化団体等の活動への新たな支援のあり方を検討するため、県内の文化団体等の現状把握を行うアンケート調査と他県の優良事例の調査研究を行った。
- 観光、地域づくりなど、さまざまな主体との連携を検討するため、文化団体以外の文化を活用した活動の事例やそれらに取り組む団体の把握等が必要。

基本施策 6：文化施設の充実

【総合文化センター】

- ・資料収集、調査研究、情報提供、職員研修、県内外文化施設との連携
「ワンコイン地域開催」、「新日本フィル 29 市町巡回公演」、「みえミュージアムセミナー」、「人材育成事業(ひと・まち・セミナー)」等での連携を実施

- ・みえミュージアムセミナー

以下の日程で「みえミュージアムセミナー」を開催

7/21 ニキ・ド・サンファル展関連企画 137 人 8/31 三重県立美術館 45 人

9/10 パラミタミュージアム 86 人 9/21 芭蕉翁記念館 110 人

9/27 真宗高田派専修寺宝物館燈炬殿 125 人

10/10 鳥羽市立海の博物館 88 人 10/25 斎宮歴史博物館 140 人

【総合博物館】

- ・コーポレーション・デーを 5 回開催。それぞれの企業による様々な催しが実施された。博物館においても、企業・県民・利用者の交流を支えることができた。
- ・コーポレーション・デーについては、企業等への働きかけにより、コロナ禍以前の開催数に回復してきている。
- ・コーポレーション・デーは、博物館における企業連携の代表的な事業であるものの、回数が増えることにより、企業との調整や準備等に係る時間や負担が大きいため、事業の持続性を保つためにも、負担軽減に向けた検討や工夫が必要。

【美術館】

- ・調査研究成果に基づき、シュルレアリスムと日本展、果てなきスペイン美術展、知っておきたい三重県の江戸絵画展、柳原義達展、植松永次展、コレクション展示等を企画運営。
シュルレアリスム展については、京都府京都文化博物館、板橋区立美術館、スペイン美術展は長崎県美術館と共同研究を行い、各館の所蔵品を活用、さらに教育普及事業も各館と連携し実施。
- ・資料収集保存については、赤松麟作作品・資料(19 点)、浅野弥衛作品(2 点)、小林研三作品(1 点)、中澤弘光資料(9 点)を収蔵するとともに、藤田嗣治《ラマと四人の女》、横山操《富士雷鳴》への無反射アクリル板取り付けの実施、エデュアル・チリーダ版画作品 2 点およびジョアン・ミロ《岸壁の軌跡》全 6 点のマット装交換作業を実施。
- ・他施設との連携では、全国美術館会議の総会、研究部会(保存研究部会、教育普及研究部会、地域美術研究部会)、研修会等に参加し、美術館の使命実現に向けて国内の美術館と広く共同研究、情報交換等を実施。
- ・全国美術館会議の要請に応じ、能登半島地震の被災地で文化財レスキュー活動に参加。

【斎宮歴史博物館】

- ・職員が参加する研究連絡会議を毎月 1 回開催し、調査研究の成果を発表し議論した結果を展覧会企画や講座の内容、発掘調査に活かすなど、調査研究基盤の充実に努めている。
- ・今後も業務の内容や分担の効率化を図ることにより、博物館活動の基礎となる調査研究、資料整理などの時間を確保し、事業内容の充実につなげていく必要がある。

【図書館】

- ・10/30(木)美術館企画展にあわせ、企画展担当者と図書司書によるトークイベント、アート&ブックガイドを開催。参加者 10 名、「満足」75%。
- ・文化施設との連携展示:15 回

【文化振興課】

- ・美術館のクラウドファンディング型ふるさと納税を実施するにあたり、シンポジウム、プロモーションイベント、各県人会にチラシを配布するとともにSNSを活用した情報発信等を行い、寄附を募った。目標額の半分以上を超える寄附が集まったが、クラウドファンディングを実施する場合は、共感を呼ぶ目的の設定や広報の工夫などが必要。
- ・総合博物館、斎宮歴史博物館、総合文化センターが周年記念を迎えることから総合博物館で開催する「金曜ロードショーとジブリ展」に関連してアニメーションをテーマに各施設で連携した事業を行い、情報共有を図った。
- ・各館の連携を図るため、年 4 回、ネットワーク会議を開催し、情報共有を図るとともに、人材育成として、他館の事例紹介とともにグループワークを行い、各館の抱える課題等について共有・討議を行った。

2. 人を育てる

指標	R4 — 実績	R5 目標 実績	計画期間		
			R6 目標 実績	R7 目標	R8 目標
文化や芸術の鑑賞・体験授業に参加した児童生徒等の人数(※1)	— 27,014 人	28,600 人 26,946 人	30,200 人 32,994 人	31,800 人	33,500 人
文化振興に係る人材の育成を目的とした事業の参加者数(※2)	— 1,104 人	1,310 人 1,944 人	1,520 人 2,672 人	1,730 人	1,950 人

※1：県立文化施設が実施する児童生徒等の文化や芸術の鑑賞・体験を目的とした事業に参加した人数

※2：県立文化施設が実施する文化振興に係る人材（若い芸術家や文化振興を担う専門人材）の育成を目的とした事業の参加者数

（2）参考指標

指標	R4 実績	R5 実績	R6 実績
文化の担い手等、人材の育成を目的とした事業の実施数(※3)	86 件	103 件	98 件

※3：県立文化施設が実施する文化振興に係る人材（若い芸術家や文化振興を担う専門人材）の育成を目的とした事業の実施数

(3) 取組概要

基本施策7：文化の担い手の育成及び確保

【総合文化センター】

- ・新日本フィル演奏クリニック

令和6年度は休止。令和7年度は6月開催で準備中。

従来までの1月開催から日程を6月開催に前倒ししたことによる受講生の減少の可能性がある。

- ・戯曲アカデミア

マスターコース受講者数6人

3/16(日) 公開リーディング公演 63人

- ・三重県高等学校演劇連盟との連携事業

4/27(土) 第25回舞台創造講習会 参加者数167人

令和7年度は観劇体験及び技術操作体験の2回開催を予定。

- ・アートマネジメント人材等育成事業

8~9月(4日間)公募インターンシップ 受講者数のべ44人

受講者から入社実績もあり、価値ある取組となっている。

- ・人材育成事業(人・まち・セミナー)

9/29 人まちセミナー「あなたならどうする?防災ゲーム「クロスロードで体験する災害対応」 66人

人材育成講座開催済は以下の6講座

7/14 桑名市 紙芝居の読み方 61人

11/14 名張市 地域で活躍する人材育成 22人

11/17 桑名市 絵本の読み聞かせ 58人

1/26 鈴鹿市 デザインのワークショップ 36人

2/2 鈴鹿市 SNS活用講座 19人

2/27 名張市 地域で活躍する人材育成 27人

- ・令和6年度文化振興育成事業(助成事業)

(公財)伊賀市文化都市協会、津市久居アルスプラザ(指定管理者:株)ケイミックスパブリックビジネス)、(公財)四日市市文化まちづくり財団、尾鷲市、(公財)亀山市地域社会振興会、御浜町

上記6市町(団体)への助成金交付

【総合博物館】

- ・博物館実習に、24名の大学生を受け入れたほか、インターンシップの大学生3名、中学生7名および高校生2名の職場体験を受け入れた。
- ・次世代の自然史分野の活動人材を育成するため、連続講座を開催した。
- ・人文、自然両分野で、学芸員の指導のもとでボランティアが資料整理活動を行っており、専門分野の人材育成にもつながっている。
- ・ミュージアムパートナー(以下、MPという。)が実施する講座や観察会について、それぞれの内容に応じて、専門の学芸員が講師を務めるなどの支援を行った。
- ・MPのグループ活動についても、本年度から休止していた地学分野のグループ活動が復活するなど、活動の活性化に協力。
- ・MPが自主企画した講座等もあり、活動が充実している。

- ・MPでは、「MP通信」を毎月発行しているが、郵便代の値上げにより、次年度からは隔月発行になる見込み。
- ・隔月発行により会員との貴重な連絡手段が薄弱になるおそれがあることから、通信内容の充実や掲載するイベントスケジュールの早期の確定などで協力をしていく必要がある。

【美術館】

- ・今年度も博物館実習に3名の大学生を受け入れたほか、中高生の職場体験学習やインターンシップの受け入れを行い、次代を担う人材の育成を行った。
- ・ボランティアと館の運営活動を協同して実施したほか、友の会主催の美術セミナーを県内3市で協同して実施。

【斎宮歴史博物館】

- ・博物館実習(8/20～24)では県内外の5大学から6人の実習生を受け入れ。
- ・毎月月末に実施されるガイドボランティア例会において、博物館職員を講師にした勉強会や企画展、特別展の展示解説会などの学術的支援を行った。
- ・第21回松阪・紀勢界隈まちかど博物館企画展(1/25～2/9)の開催に協力した。(展示観覧者数:513人)
- ・ガイドボランティアにおいては、文化観光推進の観点からも重要性が高まっているため、ガイド技術や知識のより一層の向上に向けて継続的に支援を充実させていく必要がある。

【図書館】

- ・ボランティアの活動状況は、28回

内訳:修理工房 11回、月末書架整理 7回、社会見学、図書館探検隊 8回、	合計 57名
図書館探検ツアーワーク 1回、研修参加1回	
- ・今年度は、司書実習の受け入れはなかったが、3中学から5名の職場体験学習を受け入れた。

【社会教育・文化財保護課】

- ・三重県文化財講習会、三重県文化財保護連絡会議、世界遺産保全推進協議会、世界遺産講習会の開催・実施
 - 文化財保護連絡会議 2回
 - 世界遺産講演会 1回(8/10 参加者 50名)
 - 世界遺産保全推進協議会 1回
 - みえ祭会議 1回(10/6 参加者 57名)
- ・埋蔵文化財センターにおける文化財サポートスタッフの養成
 - サポートスタッフ 25名登録、参加 14名
 - 実施事業 なんでも実験考古学 1回　まいぶん祭り 1回

基本施策 8：顕彰

【文化振興課】

- ・5/26(日)に第23回三重県文化賞受賞者表彰式を実施。
- ・8/13(火)から第24回三重県文化賞の募集を開始し、各関係機関へ募集要項・チラシを送付し、積極的な周知を実施。
- ・3回の選考委員会の選定を経て、受賞候補者として13者・1団体を決定。
- ・文化新人賞の候補者の継続的な掘り起しが課題。各学校長会等で表彰制度の周知を実施。
- ・受賞者の功績を広く知っていただくため、取材を行いSNSで情報発信を実施。

3. 歴史をつなぐ

(1) 成果指標

指標	R4 — 実績	R5 目標 実績	計画期間		
			R6 目標 実績	R7 目標	R8 目標
文化財の保存・活用・継承に向けた支援活動の実施件数(※1) ※みえ元気プランのKPIと同一	— 79 件	77 件 117 件	82 件 91 件	87 件	92 件

※ 1 : 関係団体や市町等とともに文化財の保存・活用・継承に向けて取り組んだ件数

(2) 参考指標

指標	R4 実績	R5 実績	R6 実績
新規指定等の保護措置がはかられる国・県指定等の文化財の数(※2)	23 件	10 件	3 件

※ 2 : 地域社会総がかりで保存・活用・継承を図るため新規指定等の保護措置がはかられる国・県指定等の文化財の数

(3) 取組概要

基本施策9：三重の歴史的資産等の保存、活用及び継承

【総合博物館】

- ・毎月、収蔵庫を清掃するなどして、収蔵資料の保存環境の維持に努めている。
- ・令和7年度に予定している改正博物館法に基づく博物館登録のため、収蔵資料数や保管状況、資料収集・整理の現状について把握に努めている。
- ・令和7年度に改正博物館法にもとづく博物館登録に取り組む。
- ・収蔵資料や資料収集、保存等については、将来にわたる貴重な資産を適切に管理できるよう、収蔵状況や効率的な収集、保存の方策を検討していく必要がある。

【美術館】

- ・当館のコレクションを中心とした企画展「知っておきたい三重県の江戸絵画」(10/12～12/1)を開催したほか、植松永次(7/27～9/29)、小林研三(7/9～10/6)、浅野弥衛(10/8～12/1)の特集展示を行い、三重県にゆかりのある作家や作品を紹介し、その活動を県内外に広く発信。
- ・資料収集保存については、赤松麟作作品・資料(19点)、浅野弥衛作品(2点)、小林研三作品(1点)、中澤弘光資料(9点)を収蔵するとともに、藤田嗣治《ラマと四人の女》、横山操《富士雷鳴》への無反射アクリル板取り付けの実施、エデュアル・チリーダ版画作品2点およびジョアン・ミロ《岸壁の軌跡》全6点のマット装交換作業を実施。【再掲】
- ・伊賀市美術博物館基本計画策定業務委託プロポーザル審査委員会、鈴鹿市文化財保存活用地域計画協議会、四日市市文化財保護審議会委員会などに出席し、県内文化財保存活用に関して支援を行った。【再掲】

【斎宮歴史博物館】

- ・春季企画展、夏季企画展、特別展などの展覧会事業、斎宮学講座をはじめとする講座事業などの従来からの事業に加えて、賑わい創出に向けたイベント、キャンペーンなどを実施。博物館利用者数:59,008人。前年度の年間35,330人に対して大幅増。
- ・史跡西部において奈良時代の斎宮の実態解明を進めるための発掘調査を実施するとともに、斎宮跡出土重要文化財の修理を行った。
史跡の公開、活用に向けた取組の一環として、学校と連携して生徒による発掘体験(参加者数37人)や、一般公募の発掘体験と土馬づくりのイベント(21人)などを実施。
発掘調査の現場見学者:1,383人。
- ・斎宮跡の発掘調査、斎宮跡出土重要文化財の修理を進めるとともに、企画展、特別展の企画・準備を通して、斎宮に関する文化財等の調査を行った。
- ・発掘調査では、史跡西部において奈良時代の斎宮と推定されるエリアの発掘調査を行っており、令和6年度には、奈良時代の斎王宮殿域と考えられる区画を形成する掘立柱屏の一部を確認するなど、斎宮解明に向けて大きな成果が得られた。
- ・史跡斎宮跡の全容解明に向けて計画的・効率的に発掘調査を進め、その成果を今後の史跡整備に生かすとともに、展覧会や講座、発掘体験などの事業を通して斎宮跡の魅力を幅広く発信し、史跡全体の活性化につなげていく必要がある。

【図書館】

- ・6/1(土)から7/30(火)まで「熊野古道世界遺産登録20周年」を記念し、東紀州振興課や県内市町立図書館、大学附属図書館、高専図書館(38館)と連携して、熊野古道や東紀州に関する図書館資料や世界遺産登録20周年にかかるイベントの紹介、パンフレットや地図といった観光情報を提供。
- ・引き続き、資料の収集・保存・展示等により、歴史的資産等の魅力に触れる機会を提供。

【小中学校教育課】

- ・伝統音楽指導者研修会、芸術系教科等担当教員等全国研修会の開催及び舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)の活用について周知。
- ・次年度以降も、研修会に参加する職員の増加や国事業の活用が進むよう、引き続き、周知を行っていく。

【社会教育・文化財保護課】

- ・公式Youtubeチャンネル「社文課TV」、公式Facebookページ「守ろう 活かそう 三重の文化財」等での情報発信・啓発。HP「みえ祭アーカイブ」、Instagramなどで情報を発信。
- ・祭りの映像記録作成支援、過去の映像記録のデジタル化、記録のアーカイブ化
県指定無形民俗文化財の撮影 2件
県内無形民俗文化財の映像記録編集 20件
- ・祭りの保存会、県・市町文化財保護担当者が情報交換を行う「みえ祭会議」の開催
みえ祭会議 1回(10/6 参加者 57名)
- ・民間助成事業の周知と申請支援:助成決定事業 1件
- ・熊野参詣道伊勢路に関する学術審議会の設置と学術調査報告書の発刊 1件
大紀町・御浜町・尾鷲市内の参詣道の調査を随時実施
- ・世界遺産講演会の開催 8/10 大紀町 参加者 50名
- ・子どもたちが祭を体験取材・魅力発信を行う「みえ祭協力隊」の活動支援
みえ祭協力隊 5回実施(参加者 26名、サポートスタッフ 2名)
ワークショップ 1回(8/24 参加者 23名、サポートスタッフ 3名)
みえ祭会議 1回(10/6 参加者 57名)
- ・埋蔵文化財センターで下記を開催
まいぶん祭 なんでも実験考古学2回 出前授業18回 出前講座12回
公開考古学講座5回 埋蔵文化財展1回 三重の実物図鑑展示1回
- ・「三重・石川・福井3県海女漁合同パネル展」等のパネル展開催 2月に実施
- ・全国各地で開催される三重県フェアにおける海女漁映像展示 7回
- ・各種文化財の魅力発信パンフレットの作成・配布
天然記念物に関するパンフレットを作成予定。
- ・市町による「保存活用地域計画」と個別文化財の「保存活用計画」の作成に係る検討委員会への参画
保存活用地域計画1件、個別文化財保存活用計画3件

4. 文化を生かす

(1) 成果指標

指標	計画期間				
	R4 — 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績	R7 目標	R8 目標
県立文化施設を中心とした文化観光ルートを構築した地域数(累計) (※1)	— —	1件 1件	2件 3件	3件	5件

※1：県立文化施設を起点とし、県内5地域（桑名・四日市地域、斎宮・伊勢地域、鳥羽・志摩地域、伊賀・名張地域、東紀州地域）を結ぶ「文化体験ルート」を想定し、構築できた地域数

(2) 参考指標

指標	R4 実績	R5 実績	R6 実績
県立文化施設が企画展示や公演事業、地域の自然・歴史文化資産の保存活用等を通じて市町や地域の文化団体などさまざまな主体を支援した取組の数(※2)	132件	132件	158件
「三重の文化」に係るSNSによる情報発信が閲覧された数(※3)	38,892件/ 月	69,072件/ 月	108,018件/ 月

※2：県立文化施設が企画展示や公演事業、地域の自然・歴史文化資産の保存活用等を通じて市町や地域の文化団体などさまざまな主体を支援した取組の数

※3：「三重の文化」に係る、SNS(X、Facebook)による情報発信が閲覧された数

(3) 取組概要

基本施策 10：文化を生かした地域の活性化

【美術館】

- ・伊賀市美術博物館基本計画策定業務委託プロポーザル審査委員会、鈴鹿市文化財保存活用地域計画協議会、四日市市文化財保護審議会委員会などに出席し、各市の文化事業に協力。
- ・桑名市民展、四日市市美術展覧会、伊勢市美術展覧会の運営、審査、展示等に協力し、各市文化活動への支援を行った。【再掲】

【斎宮歴史博物館】

- ・斎王まつり(6/1)、いつきのみや観月会(9/16)、さいくう平安の杜でのプロジェクトマッピング「国史跡斎宮跡平安絵巻」(11/2、3)や薪能「野宮」(11/4)、こどもわいわいフェスタ(10/20)、追儺のまつり(12/21)、凧あげイベント(1/19)などの地域の催しに際して、明和町や国史跡斎宮跡保存協会、明和観光商社、明和町観光協会、斎王まつり実行委員会などの諸団体と連携・協力して、博物館でも、トークイベント「清田のぞみと学ぼう！源氏物語と斎宮」(斎王まつりで開催、参加者120人)、ブース出店などのイベントやキャンペーン、情報発信などに取り組んだ。
- ・明和町及び旅行会社との連携による講座「阪急たびコト塾」を、9/9 大阪、9/30 名古屋、3/3 大阪、3/19 名古屋で開催。対面とオンラインを合せた受講者数 1,395 人。県外で多くの人に発信できた。
- ・博物館のみでなく史跡斎宮跡全体の活性化のため、継続して取組を行うとともに、より効果的な連携・協力の手法を工夫していく必要がある。

【図書館】

- ・地域資料を収集・組織化し、利用に供することで利用者の課題解決や調査研究を支援した。

【文化振興課】

- ・斎宮跡を核とした文化体験ルートについて、見本市出展やウェブサイトの記事掲載、ガイドの養成、発掘体験コンテンツや平安貴族体験の造成、伊勢市賓日館での伊勢音頭コンテンツの造成を実施。
- ・文化体験ルート構築のため、2 ルートでモニターツアーを実施。モニターツアーは三重県総合博物館で学芸員による解説を受けた後、テーマに沿った各所をガイド付きでめぐるもので、1回目は藤堂家と松尾芭蕉をテーマに津市、伊賀市、名張市を訪問、2回目は伊勢から熊野への巡礼旅をテーマに伊勢神宮から花の窟神社のルートで実施。
- ・斎宮跡を核とした文化体験ルートについては、令和 7 年度以降地元事業者などが自律的に実施していくよう促していく必要がある。
- ・「海女文化の文化体験ルート」や「三重の近代化遺産群の文化体験ルート」を構築していく必要がある。

【南部地域振興企画課】

- ・一次産業の体験を受け入れるとともに、地域外の人々が地域の伝統行事やイベントを知る機会を提供し、関係人口の創出につなげている。

御浜町、伊勢市、尾鷲市での受入 227 名の参加。参加者が別のワーケーションにも参加するなど、南部地域を繰り返し訪れる者もみられている。

- ・松阪(4回)・南勢志摩(5回)・紀北(3回)・紀南(3回)の合計 15回、各地域でネットワークづくりを目的とした連続講座を開催。

参加者同士が何度も顔を合わせた意見交換を行うことで、ネットワークの創出が進んでいる。

【東紀州振興課】

- ・7/7 に熊野古道センターにおいて「熊野古道世界遺産登録 20 周年記念国際シンポジウムバスくの道と伊勢路 ～現代の巡礼道を考える～」を開催。参加者約 120 名。
- ・「歩こう熊野古道、心とのう秋の伊勢路キャンペーン」として、「熊野古道アクセスバス」の実証運行や JR 東海と連携したキャンペーンを 10/26 から 2/2 まで、アクセスバス等を活用した旅行商品の販売を 10/28 から 3/14 まで実施。
- ・熊野古道伊勢路踏破ウォークの第2弾(阿曾から銚子川河川敷まで)を 5~6 月に、第 3 弾(熊野速玉大社まで)を 10~12 月に実施。参加者 延べ 1,002 名。
- ・12/7 に「熊野古道伊勢路一斉クリーンアップ作戦」を実施。
参加者:保全団体やボランティア等 159 名。
- ・12/15 に熊野市文化交流センターにおいて「持続可能な保全体制づくりシンポジウム」を開催。このシンポジウムを契機として、市町等との協議を通じて「持続可能な保全体制」の構築に向けた取組を進めていく。

【基本施策 11：文化と観光等との連携【重点】】

【総合文化センター】

- ・ものしりトラベラー（観光とまなび）

松尾芭蕉生誕 380 周年記念として伊賀市を取り上げ「芭蕉さんのふるさと伊賀を巡る」と題して講座を開催。参加者数 67 人、参加者満足度 72.6%。

2/9 に玉城町の田丸城を取り上げて講座を開催予定。

- ・アートショップ「Mikke」の運営

夏以降も自主事業関連のグッズ販売等に取り組み、売上向上につながった。

- ・首都圏営業拠点「三重テラス」との連携

伝統工芸品（松阪木綿、伊勢木綿、市木木綿製品）等の取扱いをフェアにて強化。

【総合博物館】

- ・県内の食文化に関する調査、成果の公開、普及に取り組んでいる。

- ・昨年度の伊賀市で開催した移動展示にあわせ「お雑煮調査」を、本年度は大台町で実施。

調査は、大台町の各小学校に協力いただき、児童に調査シートを配布し、家のお雑煮を調べてもらつた。この成果は、令和7年度に大台町で開催する移動展示で発表するとともに、各校には報告書として還元する予定。

児童自らが調査に協力することで、地域の食文化に対する関心・理解を育むことに役立つている。

- ・本年度秋頃に館ホームページ内で公開予定であった食文化ミュージアムのサイトについては、4つの企画展開催や開館 10 周年記念イベントの準備により遅延したため、次年度に公開見込み。

【斎宮歴史博物館】

- ・明和観光商社による三重県ゆかりの女性作家による「創造の出土品」展（11/19～12/15）の開催（展示観覧者数：1,970 人）に協力。

立体造形や陶芸、伝統工芸などの作家による作品の展示は、博物館としてははじめての試みであり、伝統産業分野との連携を深める機会となるものであった。

- ・松阪・紀勢界隈まちかど博物館企画展（1/25～2/9）における伝統工芸品の販売イベントに協力を行った。展示観覧者数 513 人。

- ・今後、「創造の出土品」展のような伝統産業分野に関する展示や企画への連携・協力を通して、伝統産業や伝統工芸品を紹介する機会とともに、博物館の新たなファン獲得にもつなげていくことができる取組を行いたい。

【図書館】

- ・県担当課と連携し、三重県の緑茶生産量等が全国 3 位であること、地産地消の取組である「地物一番」や「みえの安心食材」登録制度などについて紹介。
- ・食の安全・安心の確保に関する取り組みの紹介や、関連する本の展示を行った。
- ・引き続き、連携展示等により地域の伝統産業や食文化の魅力発信に取り組む。

【県産品振興課】

- ・三重テラスにおいて、伝統工芸や食の事業者による対面販売および県内食品事業者と連携したポップアップレストラン等のイベントを開催。
事業者による対面販売 30 回 ポップアップレストラン 11 回
- ・三重県フェアを県内外 8 店舗で開催。
伝統産業・地場産業の商品の販売やワークショップ、ステージ等体験イベントを実施。
事業者による催事出展 57 社 直営売場出展 7 社
ワークショップ 4 回(伊勢型紙、墨書き土器)
ステージ等体験イベント 4 回(忍者体験、伊勢音頭、斎宮クイズ大会)
観光文化 PR6 件(斎王まつり、熊野古道 PR)
- ・2024 みえの食セレクションを募集・選定するとともに、県内外で情報発信を実施。
2024 みえの食セレクション 18 商品選定
三重テラスにおける対面試食販売の実施
(6/15 糀屋、7/20 ISEKADO BREWERY、11/16 多気町、1/18 ブランカ)
近鉄百貨店四日市店「三重のいいモノ・うまいもの発見!!フェア」 2/15~16
- ・令和6年度三重グッドデザインを募集・選定するとともに、県内外で情報発信を実施。
三重グッドデザイン6商品選定
近鉄百貨店四日市店「三重のいいモノ・うまいもの発見!!フェア」 2/15~16

【大阪・関西万博推進ＰＴ】

- ・大阪関西万博(2025 年開催)の好機を捉えて三重の魅力を強力に発信し、本県への観光誘客及び県産品の販路拡大につなげるため、関西広域連合が設置する関西パビリオンへ出展参加
令和7年度の万博開幕に向け、関西パビリオン三重県ブースの展示・運営に係る委託事業者の選定を行い、展示制作の実施や会期中のブース運営に向け準備を実施。
ブース内で来客対応を行うアテンダントも募集を行い、募集定員 19 人のところ9倍以上である 183 人が応募。
同パビリオン多目的エリアにおいて本県主催催事「美し国彩り三重バザール」の実施に向け、出展市町及び出展事業者の募集を実施。
- ・三重県ブースの美し国みえ体験広場において、熊野古道や常若、歴史文化などの特集テーマを設け、期間ごとに展示の入替等を検討。
期間中には、市町による体験コンテンツの提供も予定。
全6テーマについて展示内容について検討・発表を実施し、多数のメディアに掲載された。
期間中の市町による体験コンテンツについての調整を実施。
- ・万博会場内 EXPO アリーナ「Matsuri」において祭りをテーマとした屋外大規模イベント「～三重のおまつり大集合～ MIE フェスティバル in EXPO」を開催。
委託事業者を選定し、展示・実演を行う祭事等について市町より推薦を受け、有識者による選定を行い、県内の 10 の祭りの展示・実演の実施を決定。
催事にて観光 PR、県産品販売及びワークショップ等を行う市町・事業者等の募集を実施し、事業者については募集定数(約15件)の2倍以上となる 40 件以上の応募があった。

基本施策 12：歴史と伝統文化を生かした郷土愛の醸成

【総合博物館】

- ・春季企画展「パール」では、真珠博物館や三重県水産研究所、真珠養殖組合と連携しながら関連イベントを開催。
県民・来館者に三重の養殖真珠の紹介や三重の歴史、伝統産業、三重ブランドへの理解を深めてもらった。
- ・秋季企画展「刀剣」では、著名な刀剣のほか、三重ゆかりの刀剣や県内で活躍している刀工に脚光をあてる MieMu ならではの刀剣展を実現し、これまで来場が少なかった 10 代から 30 代前半の刀剣ファンに来場いただき、高い評価を得ることができた。
- ・今後も三重の歴史や伝統文化をテーマにした企画展を実施できるよう、調査研究を計画的に行い、準備していく必要がある。
- ・特に、祭礼や伝統行事などは、複数年での調査が必要な場合もあるので、展覧会の中長期の計画に組み入れていく。

【美術館】

当館のコレクションを中心とした企画展「知っておきたい三重県の江戸絵画」(10/12～12/1)を開催したほか、植松永次(7/27～9/29)、小林研三(7/9～10/6)、浅野弥衛(10/8～12/1)の特集展示を行い、三重県にゆかりのある作家や作品を紹介し、その活動を県内外に広く発信した。【再掲】

【斎宮歴史博物館】

- ・斎宮や関連する歴史・文化に関わる展覧会(春季企画展、夏季企画展、特別展)及び斎宮学講座、さいくう西脇殿歴史フォーラム、斎宮イブニング講座、春季企画展・特別展の記念講演会、県内各地における出前講座などの講座を実施した。
展覧会観覧者数:35,146 人、講演会・出前講座参加者数 3,957 人。
- ・展覧会と各種講座の実施にあたって、相乗的な効果をあげるために、実施時期や内容の連動性を高めるなどの工夫を行う必要がある。

【図書館】

- ・地域資料 2,633 冊を受け入れるとともに、レファレンスサービスの提供などを行った。
- ・3/1(金)から 6/27(木)まで、2024 年に生誕 120 年を迎えた四日市生まれの小説家・丹羽文雄の著作や原稿の展示紹介を実施。
- ・6/29(土)から 10/30(水)まで、2024 年に生誕 380 年を迎えた松尾芭蕉の著作や掛軸などの資料等の展示紹介を実施。
- ・11/1(金)から 2/27(木)まで、江戸時代の伊勢国宇治山田の寂照寺住職であった月僊に関する資料の紹介展示を実施。
- ・3/1(土)から 6/29(日)まで、三重県出身または在住の児童文学者の作品紹介を実施。引き続き、資料を収集するとともに、資料等の展示紹介を実施することで、三重の歴史や文化について学ぶ機会の充実に取り組む。

【文化振興課】

- ・令和8年の三重県誕生150周年記念事業案を県立文化施設において、三重県にゆかりのある内容をテーマにした展示案を作成し、事業実施に向け、本県の「大阪・関西万博関連事業推進本部」で合意形成を行う。

【小中学校教育課】

- ・各研究指定校及び当該市町教育委員会と連携し、郷土教育・キャリア教育の取組を進め、1/17(金)に指定校4校での実践交流を公開で行うとともに、渡部カンコロンゴ清花さんの講演会を実施。また、本取組の成果を、各市町に還流していくため、郷土教育・キャリア教育通信を8回発行。
- ・指定校の取組を県内に横展開するため、引き続き、公開での成果報告会の開催や通信等の発行を行っていく。

基本施策 13：三重の文化の魅力の発信と交流の推進

【総合文化センター】

- ・全国公立文化施設協会の委員会、研修等に参加し、情報収集及び連携に努めた。
　　総会・研究大会(6/13、14)
　　東海北陸支部委員会(7/4 第1回)(11/7 第2回)(3/6 第3回)
　　東海北陸支部 アートマネジメント研修および第1回支部研修会(10/10、11)
　　東海北陸支部舞台技術研修会および第2回支部研修会(1/23、24)

【総合博物館】

- ・開館10周年記念事業の実施に向けて、SNSやネット動画を活用した広報や展示情報の発信に注力した。
- ・「パール」、「刀剣」の2つの企画展では、ネットでのライブ配信(ニコニコ美術館)を行い、県外を含む多くの方々に、企画展の内容を視聴していただいたほか、当館の存在を幅広く周知できた。
- ・ライブ配信は、放送後も動画コンテンツとしてネット上で視聴できるようにしており、ネットを活用した継続的なサービスとして活用できている。
- ・ニコニコ美術館は、制作委託という形で実施したため、博物館としては展示物の解説程度であったことから、準備のための時間、労力は比較的軽微で済んだ。
- ・今後、広報や情報発信を行うには、予算や人的資源が必要であるため、企画展の規模や内容並びに費用対効果を考慮しながら採否を判断していく必要がある。

【美術館】

- ・江戸絵画展において、連続レクチャー「曾我蕭白」(10/20・由良濯 愛知県美術館学芸員)、「増山雪斎」(11/3・当館学芸員)、「月僊」(11/20・横尾拓真 名古屋市博物館学芸員)を実施し、三重ゆかりの3人の絵師について最新の研究成果を紹介した。
- ・他の美術館で開催した8本の展覧会に23点の所蔵品を貸し出し、他府県で三重の所蔵品を紹介した(共催のスペイン美術展における長崎県美術館への31点は除く)。
- ・全国美術館会議の総会、研究部会(保存研究部会、教育普及研究部会、地域美術研究部会)、研修会等に参加し、美術館の使命実現に向けて国内の美術館と広く共同研究、情報交換等を実施した。また、全国美術館会議の要請に応じ、能登半島地震の被災地で文化財レスキュー活動にも参加した。【再掲】
- ・都道府県立美術館副館長等事務責任者会議において東海ブロック幹事館として、定例会を主催(10/17-18、41館52人出席)、「インバウンドへの対応」「収蔵スペースと収蔵方針」「観覧者増に向けた取組」について協議するとともに、「SNSの活用」「障がいのある方などへの対応」「展示室の撮影」「観覧料の減免」等共通の課題について情報交換を行った。なお、参加者には、三重県立の博物館として総合博物館、斎宮歴史博物館を紹介した。

【斎宮歴史博物館】

- ・X(旧 Twitter)において、春季企画展の展示資料を画像とテキストで紹介する展示資料紹介企画をはじめ博物館事業の関連情報の発信を行うとともに、明和町とも連携して最新の情報発信に努めた。
- ・また、これまで学術的連携を行ってきた県外の博物館とも、展覧会の情報をはじめ、チラシやパンフレットの配架など、情報発信での相互連携を継続して行っている。
- ・引き続き、X(旧 Twitter)や他の博物館との連携などによる情報発信に取り組むとともに、「我が家で斎宮歴史博物館」などの取組についても、明和町と連携して、継続・発展させるなど、効果的な情報発信に努める必要がある。

【図書館】

- ・7/31(水)「津藩史稿」第11巻、11/19(火)第12巻、3/26(水)第13巻をWebサイトで公開。
- ・戦前の行政資料である「三重県漁村調査報告 第1冊」「三重県漁村調査報告 第2冊」等7点のPDF化を実施した。
- ・国立国会図書館長との懇談会 6/27(木)、全国公共図書館協議会総会 6/28(金)、全国公共図書館協議会理事会 1/28(水)等に出席し、情報交換を行った。
- ・愛知県図書館、岐阜県図書館、千葉県図書館、長野県図書館、山梨県図書館の取組について、情報交換等を行った。今後も、他県との情報交換等を行い、当館のサービス向上の参考としていく。